



爽 緑

銚子市立明神小学校学校便り
VOL.19令和5年12月22日

令和5年度 学校教育目標 「心豊かに自律できる子どもの育成」 ~かしこく やさしく たくましい 明神っ子~
『学校は子どもにとってワクワク・ドキドキできる場所』

2学期が終了しました

本日2学期の終業式を終え、明日からは、子供たちが楽しみにしている冬休みが始まります。

この2学期は、親師会バザーや修学旅行、遠足、音楽発表会に市内体育（陸上）大会、そしてJRCの公開研究会など、たくさんの行事がありました。保護者の皆さんや地域の皆さんの温かいご支援のもと、行事をとおして子供たちが一步一步成長してきたと感じています。

終業式では、さらなる成長を願ってメジャーリーグで活躍している大谷選手の話参考に、次の2つについて話をしました。

〈1〉『成功するとか、失敗するとか僕には関係ない。それをやってみることの方が大事』

この言葉は、大谷選手が日本のプロ野球からメジャーリーグへの移籍を目指していた時、当時の栗山監督から「俺に説明をしてくれ、なぜ今アメリカに行かなきゃならないんだ？」と聞かれて、答えたものです。

◇自分自身の「やってみたい!」「やってみよう!」を大切にす。

◇2学期は、皆さんの「やってみたい!」「やってみよう!」があふれ、各学年とも様々な学習活動や体験活動が行われました。「やってみよう!」と

いって始めると、最初は予想もしていなかった学習の広がりがあったり、出会いがあたりしました。皆さんが、やってみたからこそ、新たな発見や新たな学びがあったのだと思います。



〈2〉『目標を立てれば良いのではなく、いかに目標に向かって真剣に取り組めるか』 『僕はしなくちゃいけないでやっていないんです』

この2つの言葉は、大谷選手がある試合で活躍した後のインタビューに答えたときのものです。

◇「~しなければならぬ」「面倒だ。」ではなく「自分がやりたいからやる。」

◇冬休みの目標を決めて満足している人はいませんか。

◇目標が口だけになってしまっている人はいませんか。

◇例えば、宿題を「やらなければならないもの」「面倒なもの」と思うのか、大谷選手のように、「それをやった後の自分がどうなっているのかを楽しみにする。」のか、皆さんはどのように考えますか。

「考え方」は行動の原動力です。

子供たちには「しなくちゃいけない」から「それをやったら、その後の自分がどうなっているのか。」このことを楽しみにする考え方で、充実した冬休みを過ごしてほしいと思います。

保護者の皆様、今学期も本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。